

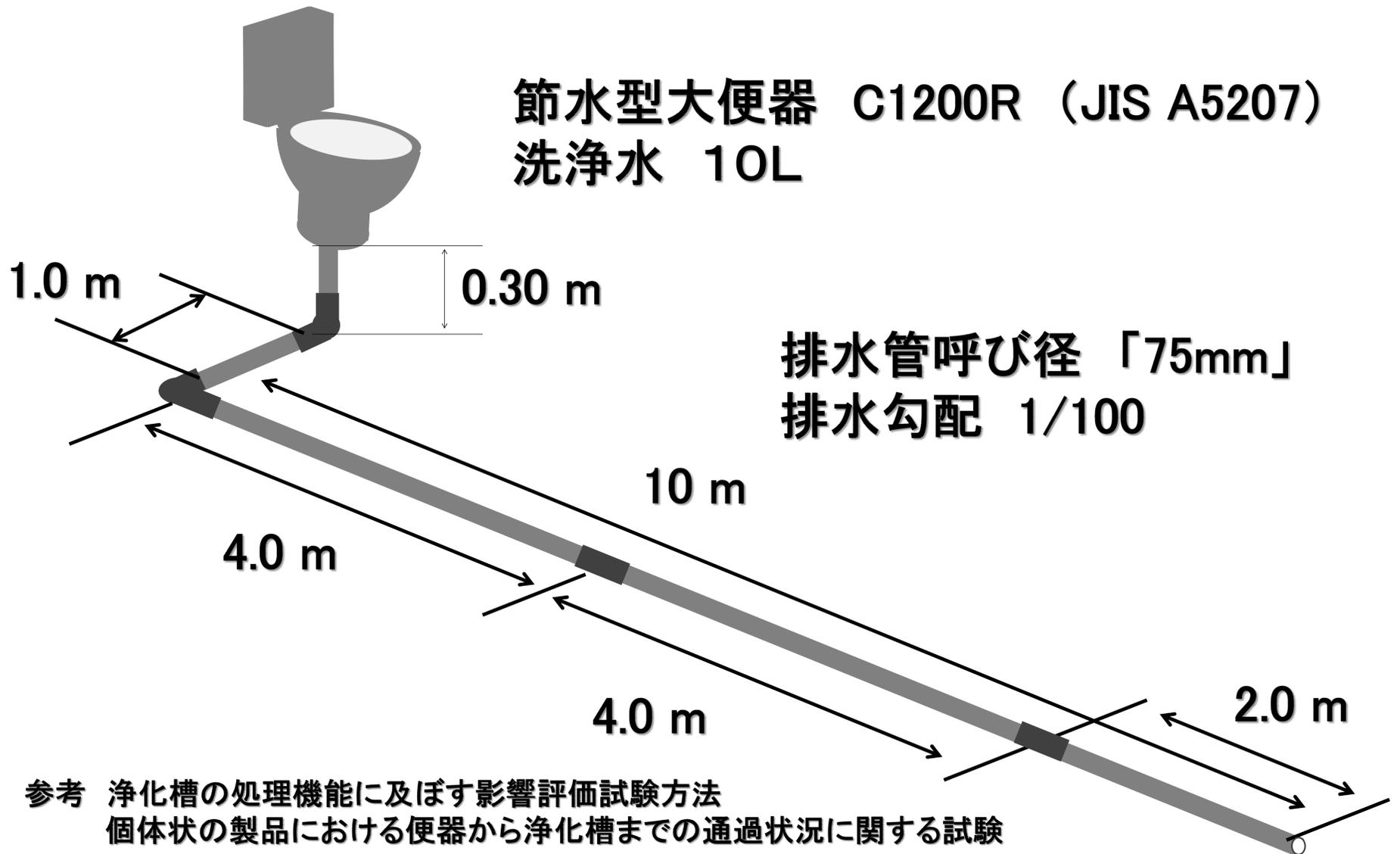
トイレに流せる製品群の評価システム(土佐方式)について —流通性試験について—

高知県立紙産業技術センター

【実験装置】

節水型大便器C1200R(JIS A5207)を設置し、排水管は全て呼び径「75mm」に統一した。3箇所のエルボも全て呼び径「75mm」の「直角エルボ」を接続した。

便器の直下から30cmの落差をとり、直角エルボで水平方向へ1.0mの排水管を1/100の勾配で接続した。さらに直角エルボで、10mの排水管を水平方向へ1/100の勾配で接続した。



【試験方法及び評価方法】

試験片を重ねて便器の「乾燥面」に投入した。洗浄水(10±0.15L)を便器から流して、便器から排水管の出口まで試験片の滞留状況及び配管の閉塞の有無を観察した。

試験片の投入数が同じ試験について、50回以上繰り返し試験を実施した。

洗浄水により、試験片が便器及び排水管から完全に排出された状態を「排出(Drained)」とし、試験片が便器及び排水管に滞留又は閉塞した状態を「滞留・閉塞(Clogged)」とした。

【DC値(%)の計算方法】

試験片の投入数が同じ試験において、それぞれ観察された「排出(Drained)」及び「滞留・閉塞(Clogged)」の回数及び繰り返した総試験回数から、DC値(Drained or Clogged value)を下式で求めた。

$$\text{DC値 (Drained or Clogged value)} = \frac{\text{滞留・閉塞(Clog)の回数}}{\text{総試験回数}} \times 100$$